

植物と虫 ～食べる食べられる

■ 期 間：10月10日（土）～11月3日（火・祝）

■ 会 場：こんちゅう館内 多目的ホール

■ 内 容：チョウの幼虫など植物を食べる昆虫はもちろん、昆虫を食べる「食虫植物」や、昆虫が食糧や住居として植物に形成させる「虫こぶ」などについて、生体や標本で丁寧に解説します。袋状の葉で虫を消化する「ウツボカズラ」や「サラセニア」、虫を葉で挟んで捕獲する「ハエトリグサ」などの「食虫植物」。アブラムシが詰まった「ヌルデミフシ」など、日常では目にすることはない異形かつ多様な「虫こぶ」も大集合。奇妙・奇天烈！見ごたえありますよっ！（逸見）



モウセンゴケの一種



ヌルデミフシ(アブラムシ)



クヌギの虫こぶ(タマバチ)



ハエトリグサ



サラセニアの一種

イベント案内

- ★ 9月 ・企画展示「秋の鳴く虫」：12日（土）～27日（日）
・大人の昆虫講座「絶滅のおそれのある昆虫たち」：13日（日）13：30～14：30
・観賞会「森の音楽会」：22日（火・祝）13：30～14：30
- ★10月 ・大人の昆虫講座「国内で分布を拡げる昆虫たち」4日（日）13：30～14：30
・虫講座「食虫植物のはなし」：17日（土）13：30～14：30
・観賞会「ドングリと虫」：18日（日）10：30～11：30
- ★11月 ・大人の昆虫講座「外国からやってきた昆虫たち」8日（日）13：30～14：30
・工作「落ち葉・木の実で遊ぼう」：22日（日）/23日（祝）10：00～12：00 13：00～15：00

※ 新型コロナウィルス感染症の拡大状況により、中止・変更などの可能性があります。

※ すべて「事前申し込み制」です。（「企画展示」を除く）

※ 募集定員は、各30名程度。「工作」のみ午前・午後とも各50名程度。多数応募の場合は抽選となります。

※ 申し込み締切日等の詳細につきましては、こんちゅう館までお問い合わせください。

こんちゅう館 News 新シリーズ Vol.2 秋号 2020年9月1日

編集/発行 広島市森林公園 こんちゅう館

〒732-0036 広島市東区福田町字藤ケ丸 10173 番地

TEL (082)899-8964 FAX (082)899-8233 HP <http://www.hiro-kon.jp/>

こんちゅう館 News

み～んな主役！！ 虫の館のスターたち ②

クツワムシ *Mecopoda nipponensis*

クツワムシ科 バッタ目



生息環境：クズの茂み



褐色型の雄



緑色型の雄

「クツワムシ」という和名は、「ガチャ・ガチャ…」という鳴き声が、馬を引くための金具「くつわ」が揺れる音に似ていることに由来します。体長50mm程度。体色に褐色と緑色の二つの型があります。クズが繁る河川敷や林縁にすみ、成虫・幼虫ともその葉を食べます。

小さな集団を形成する傾向があり、積極的に移動・分散することはありません。そのため土地造成などの開発の影響を受けやすく、近年、生息地が減少しています。

例年9月に開催する「秋の鳴く虫」では、夜の雰囲気演出した会場内に、大きな鳴き声を響かせてくれます。そのけたたましさは、展示ケースに収納する雄の数を1個体にとどめなければならぬほど！風情はあまり感じられないかな…？でも、会場では人気者です。「でっかい声！」「へえ～クツワムシってこんな虫なんだ」唱歌「虫のこえ」に登場するため、名前は有名なクツワムシですが、その実態を知る人は少ないようです。（松尾）

パピオンドームの舞姫 ②

クロテンシロチョウ *Leptosia nina*

シロチョウ科 チョウ目



成虫



卵



幼虫



ギョボク



さなぎ



生息環境(沖縄県西表島)

「クロテンシロチョウ」は、小型のシロチョウの仲間です、琉球列島の南端に連なる八重山諸島に生息します。かつては、台風が南方から運んできた個体がごく稀に発見される程度でした。ところが、1980年代後半頃から、与那国島で間断なく発生を繰り返すようになりました。その後、西表島や石垣島にも進出し、今ではすっかり八重山チョウ一家の一員となっています。

幼虫が食べる「ギョボク」は、ツマベニチョウの食草でもあります。両種が同じ株に産卵をすると、先にふ化したクロテンシロチョウの幼虫が葉をもりもりと食べ、後からふ化するツマベニチョウの幼虫は飢えてしまいます。この問題の解決には、両種の成虫の習性の違いを利用しています。クロテンシロチョウは、薄暗く閉鎖的な環境を好みます。一方、ツマベニチョウは、明るく開放的な環境を好みます。そこで、両方の環境にギョボクの鉢を置き、両種の卵が混在しないようにしているのです。採卵用植物の鉢の配置にも、ぜひ注目してみてください。(藤井)

トンボ池の四季 2020 秋

朝晩に涼しい風が吹き、秋らしさを感じる頃になると、職員は盛夏を経て大繁茂した水生植物を間引く重労働に追われます。トンボ池のような小さくて閉鎖的なため池の場合、管理をしないと、岸辺も水面も繁殖した植物に埋め尽くされ、生息する昆虫の種数・個体数とも減少してしまいます。そこで定期的に植物を除去し、植生環境の維持に努めなければなりません。陸にあげた植物は無駄にはなりません。堆肥にして、カブトムシの幼虫の餌として使うのです。

秋らしさが増すにつれ、生き物たちの顔ぶれは変わります。池のほとりではオタカラコウやサワギキョウなどの花が咲き、昆虫に蜜と花粉を恵みます。ナガエミクリが実をつけ、夕方になるとマルタンヤンマの雌が産卵のためにひっそりと水面に降り立ちます。(逸見)



オタカラコウの花



マルタンヤンマの雌



ナガエミクリの花(左)と実



秋の気配が漂い始めたトンボ池



回収したウキクサ

こんちゅう館の季節の虫

オオカマキリ *Tenodera aridifolia*

こんちゅう館周辺では、成虫は9月中旬～10月下旬に現れ、子どもたちを楽しませてくれます。

見つけたら、水をかけてみてください。寄生しているハリガネムシが出てくるかも！(逸見)



パピオンドームの花

チリメンナガボソウ *Stachytarpheta dichotoma*

濃い紫色の花を、細長い花穂の下から上方へ、順を追って咲かせます。

地味ですが、チョウには人気があり、クロテンシロチョウのほか、シロチョウ類やアゲハ類がよく訪れます。(藤井)

